読み、考え、伝える探究型英語授業

―科学的題材を通して「思考力・判断力・表現力」を育む実践―

土屋 進一

はじめに

近年の英語教育では、単なる知識伝達から脱却し、「読み、考え、伝える」力を育む授業づくりが求められている。

特に、新学習指導要領が掲げる「思考力・判断力・表現力等」の育成においては、英語を情報理解の手段としてだけでなく、自らの思考を形成し発信する言語として活用することが重視されている。

本稿は、筆者が鳥取県教育委員会「新しい学びの創造事業『主体的・対話的で深い学び』」において授業助言者および示範授業者として5年連続で招聘され、2025年11月7日、鳥取県立米子西高等学校で行われたものをまとめたものである。

１．題材とねらい

題材は『Power On Ⅰ』（東京書籍）Lesson 6「Patterns in Human Behavior」で、財布の返却率やクッキーの消費傾向など、日常の行動を題材とした心理学的実験を通して、人間の意思決定や行動の背景を探る内容である。

授業の狙いは、次の3点である。

(1) 科学的事例を英語で理解し、因果関係を整理する力を養うこと。

(2) It is + 形容詞 + that 節構文を用いて、自分の考えを英語で論理的に表現できるようにすること。

(3) ペア・グループ活動を通して、他者の意見に触れながら思考を深め、英語で「伝え合う」経験を積むこと。

単なる読解にとどまらず、「科学的な読み → 自分の思考 → 英語での発信」という三段階の学びを意識した授業設計とした。

(1) 問いを立て、学びを開く：Word Definition Game & Yes/No Quiz

授業冒頭では、心理や行動に関わるキーワードを扱った Word Definition Game と Yes/No Quiz を行った。

生徒は英語で単語を説明したり、互いの選択肢を比べたりしながら、自然と「自分ならどうするか」を考える。

> Q1. “If you lost your wallet, what would help you get it back?”
>
> Q2. “You are on a diet but see two boxes of cookies. Which one do you choose?”

この段階で生徒は、英文を読む前にすでに思考のスイッチを入れている。

題材への関心喚起と、英語で考える準備が整う瞬間である。

(2) 読みを深める：Sentence Ordering & Listening

次に、本文を理解するために Sentence Ordering Activity を実施した。

シャッフルされた英文を論理的に並べ替えることで、内容理解だけでなく、英文構成の論理的筋道を考える力を育てる。

さらにリスニングを通して音声で再確認することで、読む・聞く双方のインプットを統合させた。

生徒たちは、英語の流れを「再構築する」活動を通して、科学的論理の展開を体感していった。

(3) 登場人物になりきる：Role-Play で心を動かす

第２校時では、学んだ内容をもとに Role-Play を実施した。教科書では、モノローグの本文を探究の授業での ALT と生徒の対話形式に仕立て直す工夫を施した。

ALT と教師によるモデル会話を見た後、生徒は実験参加者や観察者の役になって対話練習を行った。

> ALT: Imagine you lost your wallet. Which of these items should be inside to have the best chance of getting it back: a photo of a baby, a puppy, a family, or an elderly couple?
> S: Hmm… maybe a family?
> ALT: Actually, a baby works best. Researchers dropped 240 wallets around Edinburgh, Scotland. Each wallet had one of these photos.
> S; What were the results?
> （以下省略）

こうした Role-play でのやり取りを通じて、英語が「思考を整理するための言葉」から「他者と共に考える言葉」へと変化していった。

生徒の表情には、探究の手応えと英語を使う喜びが浮かんでいた。

(4) 文法を探究のツールとして使う：Grammar in Context → Writing

文法指導では、It is + 形容詞 + that 節を「思考の言語化ツール」として活用した。

単に形を覚えるのではなく、次の１や２のような日常生活に根差した人間が無意識に行動していると思われることを文脈の中で理解させた。さらに、それを参考としながら、Writing 活動として生徒が自分の考えを It 構文で表現し、Google Spreadsheet に入力して共有した。

> Many students study hard before a test.
> (　　①　　).
> But if they do their best, they can feel proud of themselves.
>
> 答え.
> It is natural that people feel nervous when they take a test because they do not want to get a bad score.

教師がいくつかの良い作品を全体で共有すると、教室に英語で考えを伝え合う共同体のような雰囲気が醸成された。

３．「読み・考え・伝える」学びの深化

この授業で印象的だったのは、生徒の「気づき」の瞬間である。

心理学という科学的内容でありながら、日常に直結しているため、生徒たちは自然と自分の経験を引き寄せて考えていた。

以下にいくつかの英文例を挙げる。

> 生徒 A: “It is natural that people smile when they see animals like cats because they are cute.”
>
> 生徒 B : “It is natural that people admire the actors when they see them because they look very cool and cute.”
>
> 生徒 C: “It is natural that people feel happy when they win the game because they practiced hard.”

こうした発言が生まれるのは、教材を自分ごと化できた証拠である。

英語が「知識の対象」から「思考の道具」へと転換した瞬間に、探究的な学びが始まる。

４．おわりに

「読み、考え、伝える探究型英語授業」は、知識習得の枠を超えた英語教育の新たな可能性を示している。

教師の役割は、英語を教えることではなく、英語を通して生徒が世界を読み解き、自分の言葉で表現する場を創ることにある。

米子西高校でのこの実践を通して、科学的題材と英語表現を融合させることで、生徒が主体的に思考し、互いに学び合う「深い学び」が生まれることを実感した。

今後も、学習指導要領の理念に基づき、「情報を整理しながら考えを形成し、英語で伝え合う授業」を探究していきたい。

謝辞

本授業を行うにあたり，鳥取県立米子西高等学校の英語科の先生方には，授業当日のサポートのみならず，授業実施に至るまでの打合せにおいても多大なるご協力をいただきました。また、参観してくださった鳥取県内の他の高等学校の先生方にも授業後の研究協議会にて貴重なご意見・ご感想を賜りました。

ここに心より感謝申し上げます。

参考文献

土屋進一. (2021). 「鳥取県『新しい学びの創造事業『主体的・対話的で深い学び』教員スキルアップ事業』の実践報告」. 英語実践事例シリーズ No.1.

土屋進一. (2022). 「ICT を活用し生徒が活き活きと活動できる英語授業」. 東京書籍ホームページ. 英語実践事例シリーズ No.10.

土屋進一. (2023). 「新しい学習指導要領に基づく論理・表現の文法指導」. 東京書籍ホームページ. 英語実践事例シリーズ No.22.

土屋進一. (2024).「深い学びを促し自己表現につなげる物語文の授業」国際教育ナビホームページ

文部科学省. (2018). *高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編*. 文部科学省.

【お問い合わせ】

今回の示範授業で使用した ①**指導案** ②**パワーポイント資料** ③**ワークシート**の 3 点**(いずれもPDF)**をご希望の方は、下記のメールアドレスにお名前・ご勤務先・この記事に関するご意見・ご感想・ご質問などをお書きの上、送信してください。資料は１週間以内に必ずお送りいたします。また、講演・示範授業のお問い合わせもお待ちしております。

tsuchiya@bunri-c.ac.jp